

2014年6月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 日時@場所

2014年6月7日（土）10:00～16:00@ITEQ

2. 参加者<敬称略> 出：出席、欠：欠席、見：見学、書：書記、休：休会

大見	欠	牧野	出	横尾	出	杉浦	出	井上	出	則尾	書	野田	見	池田	休
林	欠	梅本	出	山口	出	奥田	欠	伊藤	出			和田	見	森	休

3. 事務連絡等

- 7月研究テーマ：TRIZ勉強会（講師はアイウェル林先生）
- 7月懇親会の実施（田口伸一氏出席予定）
- メンバーリストの作成（池田、森の2名は休会扱いとして名前を残す）
- メンバー全員が何らかのテーマを持って来る

月	7	8	9	10	11	12	1	2	3
担当	梅本	牧野	横尾	山口	奥田	林	大見	則尾	伊藤

4. 事例検討

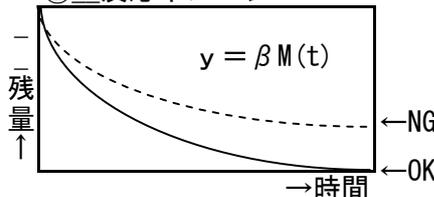
- 行列解析の検討→近直交表（L12）、直交表（L8, L9）の解法（井上）
直交表に合わせ平均値と内側直交表の制御因子に対するダミー変数を使った正方行列を作成する。
※考え方：各因子の水準効果の合計は0であることを利用して、L12であれば、6因子分のダミーを追加して、L18の正方行列を作る。
逆行列を求めるために、計算はExcelの関数を使用。詳細は、別シート参照。

- 近直交表（L12）を用いた__シートの__低下原因の検討
__～製造してきた__が、__に入り__回連続で規格（__吸収率__%以上）NG発生
L12を使用して原因究明。

①乾燥前組成イメージ

固形分：__%	←シートに残る
液体分：__%	←乾燥などで揮発する

② 反応イメージ



③制御因子

__の種類、__剤量、接着剤量、__量、乾燥条件 など
注）トータルの液量は一定にし、比率で調整する。

④特性値

乾燥後紙厚さ、乾燥後紙重量、__残量

⑤その他

- ・粘度と__効果に関係あり？との情報あり。粘度を制御因子にすると、他の因子の水準が大きくなるため、特性値として扱い、__効果など他の特性値との相関関係をみる
- ・紙の厚みや種類（ツルル具合）との関係り？との情報あり。因子（制御or外側因子）として検討

- MTA法（多重共線性対策：余因子法）での計算事例とMT法との比較（牧野）
スケールのとり方が違うだけで、単位空間距離の相関係数/寄与率は1（信号を入れても同じ）。
※MTA法だと元のデータ値により単位空間の平均距離が変わるが、MT法だと単位空間の平均距離は1付近になる。

5. 新製品開発手法の研究

- __開発経緯の紹介
__性と__性を確保するためにL12を使用して両立させた。その他開発詳細は割愛。
- 調査内容検討及び今後の進め方
 - ①事業/商品企画作成の流れ（案）説明（井上）。詳細は当日配布ファイル。
 - ②資料p4を中心に進め方について意見確認
 - ③具体性が必要なため消臭スプレーを題材にするが、幅広く考える。
 - ④STEP3までは__さんが考え、それを元にSTEP4以降メンバーで分担しながら考える。

6. 次回案内

7月5日（土）10:00～16:00@中品協 → 終了後、懇親会@ITEQ

